

2. 底質(粒度)の状況

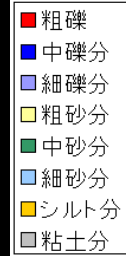
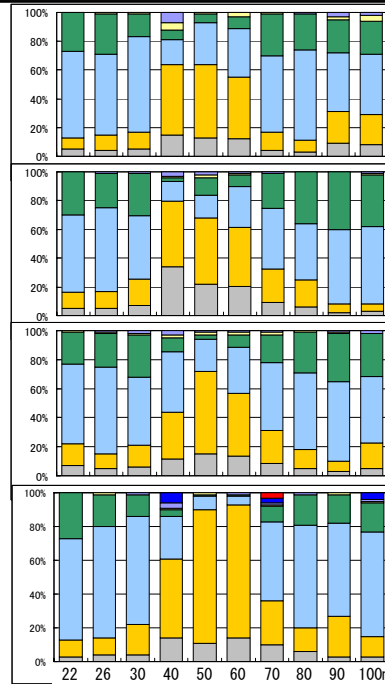
2-1 調査結果 施工前:
平成18年4月

1工区

施工後約1ヶ月:
平成18年9月

施工後約8ヶ月:
平成19年4月

施工後約1年:
平成19年8月



35

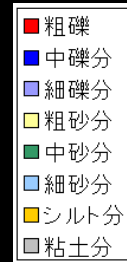
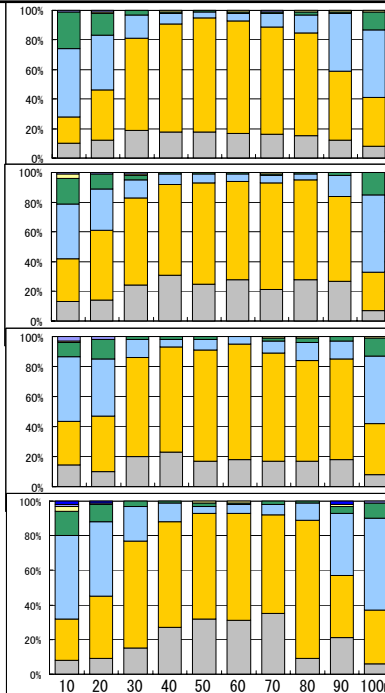
対照測線L-2

施工前:
平成18年4月

施工後約1ヶ月:
平成18年9月

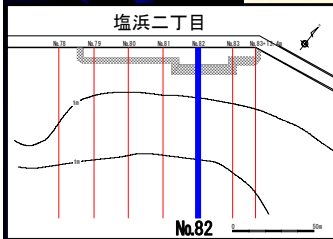
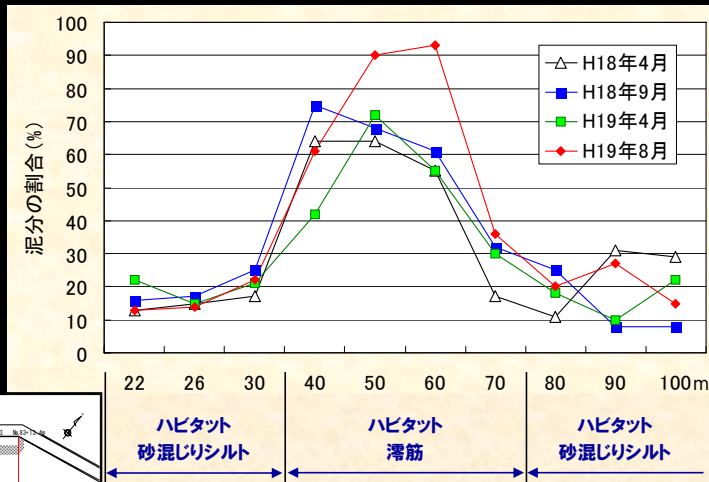
施工後約8ヶ月:
平成19年4月

施工後約1年:
平成19年8月



36

1工区における泥分の割合の変化



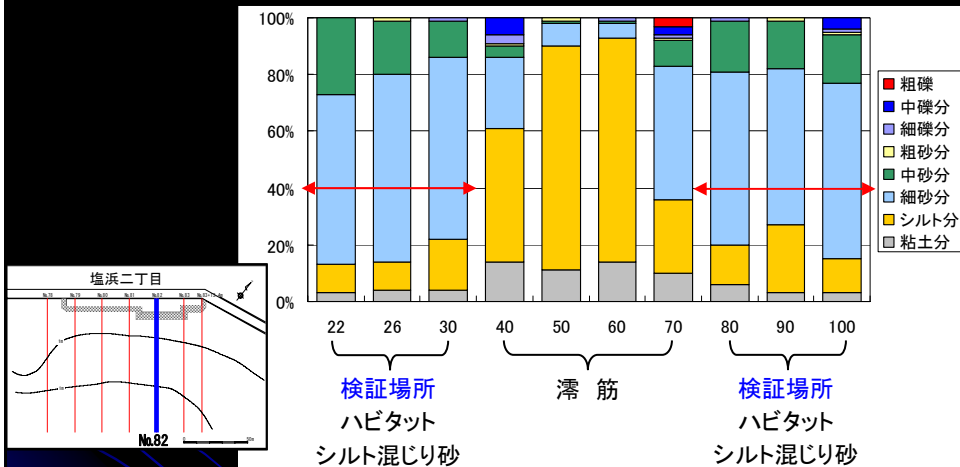
※泥分は、シルト分と粘土分の割合の合計

2-2 底質(粒度)に関する検証基準

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
泥分※ の割合	検証はモニタリング調査の実施毎に行うが、評価は、季節変動を考慮して、施工完了後一年間経過後に行う。	距離22~30mの ハビタット 「シルト混じり砂」	底質の季節変動、アサリの底質に対する嗜好を踏まえて、泥分の割合が40%を超えないこととする
		距離80~100mの ハビタット 「シルト混じり砂」	

※泥分は、粒度試験結果におけるシルト分と粘土分の割合の合計とする。

2-3 底質(粒度)に関する検証結果

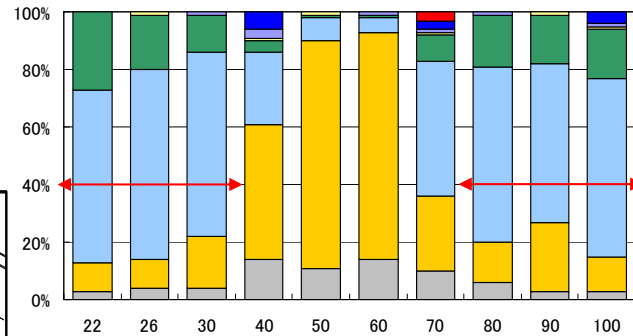
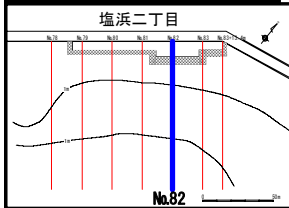


1工区における施工約1年後の粒度試験結果

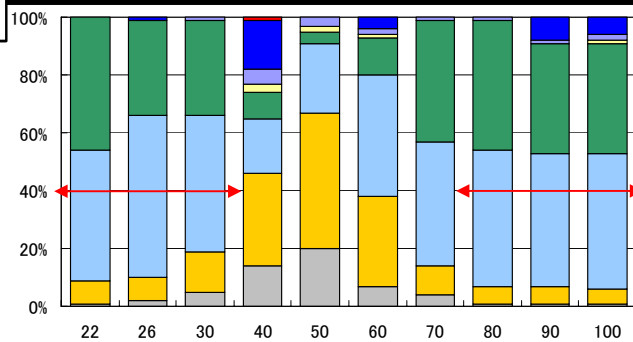
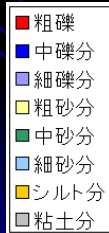
泥分に当たると考えられるシルト分と粘土分の割合は、離岸距離22~30m、80m~100mでは約10%から約30%までの値であり検証基準を満たしていた。

台風通過後の底質(粒度)の状況

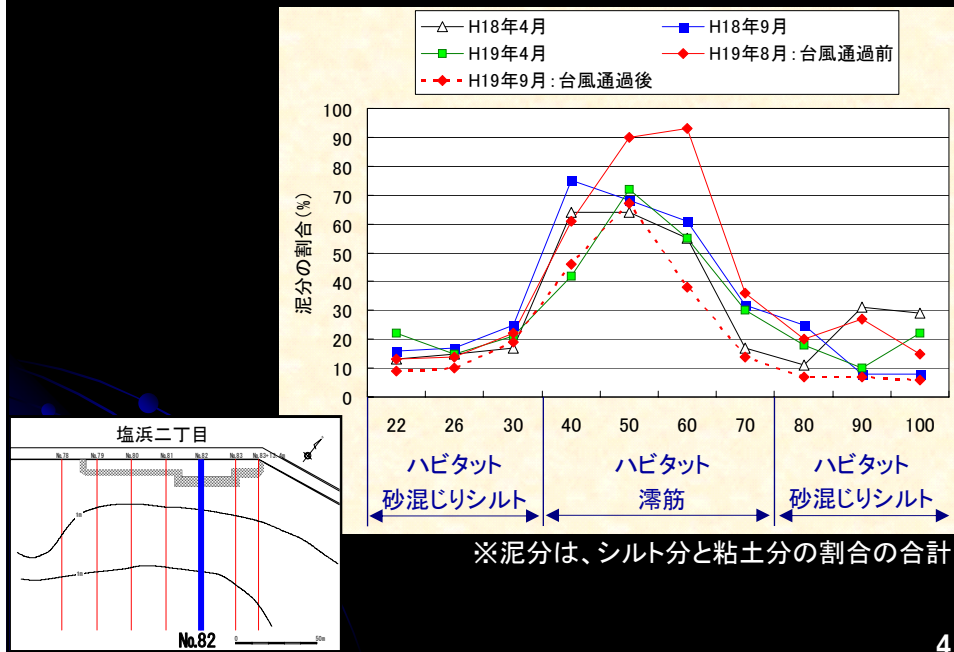
台風9号通過前
H19年8月27日



台風9号通過後
H19年9月21日



1工区における泥分の割合の変化(台風9号通過後)



41

目標達成基準2に対する検証と評価

42

目標達成基準2	周辺海底地形に洗掘等の著しい変化が生じないこと
検証結果	<p>海底地形に関する検証基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 検証箇所(のり先)における施工前と施工後約一年の地形変化は、10cm以下であり、海底地形に関する検証基準「施工前海底面に対して±50cm」を満たしていた。 <p>底質(粒度)に関する検証基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 泥分の割合は、検証箇所である離岸距離22m~30m、及び80m~100mでは、約10~30%までの値であり、底質(粒度)に関する検証基準「泥分の割合が40%を超えないこと」を満たしていた。
工事一年後の評価	海底地形、底質(粒度)ともに、季節的な変動等は見られるものの、生態系に大きな影響を与えるような、大きな変化等は生じていない。